

- 問1 九州地方北部に位置する筑紫平野では、夏に米を、冬に麦を栽培するといったように、同じ耕地で一年のうちに二種類の異なる作物を栽培する農業が行われています。このような栽培方法を何といいますか。 (2025年 京都府公立入試 類似)
1. 二期作 2. 抑制栽培 3. 二毛作 4. 促成栽培
- 問2 日本の各地方における農業産出額の構成を比較した統計において、米の割合が非常に高い東北地方や、大規模な経営が特徴の北海道と異なり、畜産と野菜の生産額がそれぞれ全体の約4分の1から4割近くを占め、多様な農業が展開されている地方はどこですか。 (2023年 和歌山県公立入試 類似)
1. 北海道 2. 東北地方 3. 九州地方 4. 関東地方
- 問3 福岡県の工業出荷額に占める産業別割合を示した統計において、機械工業に次いで大きな割合を占め、北九州工業地域の沿岸部に工場が集中している産業の名称を答えなさい。 (2020年 静岡県公立入試 類似)
1. 金属工業 2. 食料品工業 3. せんい工業 4. 化学工業
- 問4 2019年の空港別・訪日外国人の国・地域別割合を示した統計において、韓国からの利用者が約49.4%を占め、成田国際空港（約10.4%）や関西国際空港（約18.0%）と比較してその割合が極めて高い数値を示している国際空港はどこか、名称を答えなさい。 (2022年 徳島県公立入試 類似)
1. 中部国際空港 2. 那覇空港 3. 福岡空港 4. 新千歳空港
- 問5 九州地方の各県の産業について述べた次の説明のうち、宮崎県と福岡県の特徴を正しく組み合わせたものはどれですか。 (2023年 三重県公立入試 類似)
1. 宮崎県と福岡県はともに農業産出額のうち米の割合が最も高く、工業については佐賀県の出荷額が九州で最大である。 2. 宮崎県は農業産出額において畜産の占める割合が非常に高く、福岡県は九州地方で最大の工業出荷額を誇っている。 3. 宮崎県は平野部を中心に稲作が盛んで米の産出額が九州で最も多く、福岡県は畜産が県内の農業の大部分を占めている。 4. 宮崎県は工業出荷額が九州地方の中で最大規模であり、福岡県は農業産出額において米の産出額が畜産を上回っている。
- 問6 九州地方の自然環境とエネルギー利用について、火山の分布と関連の深い発電方式の特徴を説明したものとして、最も適切な記述を選択してください。 (2016年 岡山県公立入試 類似)
1. 火山の地下にあるマグマの熱によって生じた天然の蒸気を利用し、タービンを回して発電する方式 2. 石炭や天然ガスを燃焼させて得た熱で蒸気を作り、タービンを回して大量の電力を得る方式 3. 火山地帯の標高が高い地域に大型の風車を設置し、地形によって強まる風の力を利用して発電する方式 4. 火山の斜面を流れる急峻な河川にダムを建設し、水の落下するエネルギーを利用して発電する方式
- 問7 九州地方の太平洋側に位置する宮崎市は、暖流である黒潮の影響を強く受けています。この地域の気候の特色を説明した文として、最も適切なものはどれですか。 (2019年 山形県公立入試 類似)
1. 周囲を山地に囲まれているため、年間を通じて降水量が少なく乾燥している。 2. 北西からの季節風の影響で、冬の降水量が非常に多く、雪が降りやすい。 3. 冬でも温暖な気候であり、6月や9月を中心に年間の降水量が非常に多い。 4. 1月の平均気温が0度を下回り、夏は短く涼しいが、冬の寒さは非常に厳しい。
- 問8 九州地方の北部に位置し、九州地方において最も人口が多い県の県庁所在地である都市として正しいものを、次のうちから選びなさい。 (2024年 秋田県公立入試 類似)
1. 福岡市 2. 北九州市 3. 熊本市 4. 鹿児島市
- 問9 九州地方の工業発展の歴史と、その後の変化について述べた文として正しいものはどれか。 (2016年 神奈川県公立入試 類似)
1. 九州北部の工業は、地熱発電による電力を主軸として発展しており、石炭や石油などの化石燃料を一切使用したことがない。 2. 現在も九州北部では石炭が主要なエネルギー源として採掘され続けており、重化学工業の出荷額が全国1位を維持している。 3. かつては石油資源の産出によって重工業が発展したが、現在は環境保護のために全ての工場が内陸部へ移転している。 4. 明治時代から石炭資源を背景に重工業が発展したが、現在はIC（集積回路）や自動車工業など産業の多様化が進んでいる。
- 問10 北海道、茨城県、新潟県、鹿児島県の4道県の農業産出額の内訳を比較したとき、鹿児島県の統計的な特徴を説明したものとして最も適切なものはどれですか。 (2020年 香川県公立入試 類似)
1. 総産出額の半分以上を米が占めており、畜産の割合は極めて低い 2. 米、野菜、畜産の産出額がほぼ同等であり、特定の部門に偏らない多角経営が行われている 3. 総産出額の半分以上を畜産が占めており、その額は3,000億円を超えている 4. 野菜の産出額が最も多く、近隣の巨大消費地へ向けた近郊農業が中心となっている
- 問11 九州地方に位置するある空港は、国内の航空ネットワークにおいて極めて重要な拠点となっています。この空港と東京国際空港（羽田）を結ぶ路線の旅客数は年間約836万人に達し、国内最大級の規模を誇ります。また、大阪、那覇、中部、新千歳といった主要都市とも結ばれているこの空港の名称として正しいものを選択してください。 (2022年 熊本県公立入試 類似)
1. 福岡空港 2. 那覇空港 3. 鹿児島空港 4. 北九州空港
- 問12 九州地方の火山に関連する地理的事象とその影響について、背景や理由を含めた記述として最も適切なものはどれですか。 (2018年 千葉県公立入試 類似)
1. 活火山周辺では噴火による降灰被害を防ぐため、広大なカルデラ内は居住や農業が厳しく制限され、主に無人の発電施設のみが設置されている。 2. 火山地帯では地下深くに高温の蒸気や熱水が存在するため、これを取り出してタービンを回す発電方式が、再生可能エネルギーの一つとして活用されている。 3. シラス台地は養分を豊富に含んだ火山灰で構成されているため、肥料を与えずとも高い収穫量が得られることから、九州最大の野菜供給地となっている。 4. 火山地帯は地盤が非常に強固であるため、大規模な工業団地や製鉄所の建設に適しており、北九州工業地帯の発展を支える要因となった。
- 問13 九州地方に位置し、阿蘇山周辺や平野部、干拓地などを活かした農業が盛んで、全国トップクラスの農業産出額を誇り、特に野菜の生産額が多い県はどこですか。 (2026年 徳島県公立入試 類似)
1. 長野県 2. 熊本県 3. 愛媛県 4. 高知県
- 問14 九州南部の鹿児島県などに広く分布する、過去の巨大噴火による火山灰などの噴出物が厚く積み重なって形成された台地を何と呼びますか。 (2020年 広島県公立入試 類似)
1. 扇状地 2. カルデラ 3. 三角州 4. シラス台地

答え合わせ・解説

問1	答え 3 二毛作	筑紫平野では、温暖な気候を活かして、夏に水稲（米）を育てた後の水田で、冬から春にかけて麦などを栽培する「二毛作」が伝統的に行われてきました。一年に同じ作物（主に米）を2回作る「二期作」とは、異なる種類の作物を作るという点で区別されます。
問2	答え 3 九州地方	九州地方は農業が非常に盛んな地域で、特に宮崎県や鹿児島県を中心とする南部では畜産が、福岡県などの北部では稲作や野菜の栽培が行われています。シラス台地という水はけの良い地形的制約を克服し、畜産や畑作を発展させてきた歴史背景から、全体の産出額に占める畜産の割合が他の地方に比べて高いのが特徴です。
問3	答え 4 化学工業	北九州工業地域は、鉄鋼業（金属工業）から発展した歴史がありますが、現在は機械工業や化学工業が工業出荷額の中で重要な役割を担っています。特に化学工業は、広大な敷地と港湾施設を必要とするため、地図上の工場分布を確認すると、内陸部よりも沿岸部に記号が集中していることがわかります。これは原料の輸入と製品の輸出を効率化するための典型的な臨海型工業の特徴です。
問4	答え 3 福岡空港	福岡空港は、九州の北部に位置し、朝鮮半島との地理的な距離が非常に近いという特性を持っています。そのため、成田や関西といった他の主要な国際空港に比べて、韓国からの観光客やビジネス客の利用が占める割合が圧倒的に高いことが統計上の大きな特徴です。このように地理的条件が訪日外国人の構成に直接影響を与えている事例として重要です。
問5	答え 2 宮崎県は農業産出額において畜産の占める割合が非常に高く、福岡県は九州地方で最大の工業出荷額を誇っている。	九州地方南部では、シラス台地などの地形的条件を活かした畑作や畜産が発展しており、特に宮崎県は肉用牛、豚、鶏などの畜産業が農業産出額の多くを占めているのが特徴です。一方、九州地方北部の福岡県は、北九州工業地帯やその周辺の自動車産業などの集積により、九州で最も大きな工業出荷額を記録しています。佐賀県は九州の中では比較的、農業産出額に占める米の割合が高いという特徴がありますが、工業出荷額が最大なのは福岡県です。
問6	答え 1 火山の地下にあるマグマの熱によって生じた天然の蒸気を利用し、タービンを回して発電する方式	九州地方は「火の国」とも呼ばれるように、活発な火山活動が見られる地域です。地下に存在するマグマの熱を直接エネルギー源とする地熱発電は、天候に左右されず24時間安定した発電が可能であるという利点があります。温泉や観光資源としての活用とともに、火山地帯特有の持続可能なエネルギー源として重要な役割を担っています。
問7	答え 3 冬でも温暖な気候であり、6月や9月を中心に年間の降水量が非常に多い。	宮崎県は日本の南部に位置し、さらに沖合を流れる暖流の黒潮（日本海流）の影響を受けるため、1月の平均気温が約10度におよぶなど、冬でも非常に温暖です。また、夏から秋にかけては太平洋側から吹く湿った季節風や台風の影響を強く受けるため、梅雨時期の6月や台風シーズンの9月に降水量が急増し、年間降水量が極めて多い「太平洋側の気候」に属します。これに対し、冬に降水量が多いのは日本海側の気候、年間を通じて降水量が少ないのは瀬戸内側の気候や中央高地の気候の特徴です。
問8	答え 1 福岡市	九州地方の北部に位置する福岡市は、福岡県の県庁所在地です。福岡県は九州地方で最大の人口を抱える県であり、その中心都市である福岡市は、商業やサービス業が高度に集積した地方中枢都市として発展しています。
問9	答え 4 明治時代から石炭資源を背景に重工業が発展したが、現在はIC（集積回路）や自動車工業など産業の多様化が進んでいる。	九州北部は明治時代以降、豊富な石炭資源を利用して鉄鋼業などの重工業が大きく発展しました。しかし、1960年代のエネルギー革命によってエネルギー源が石炭から石油へと転換されると、炭鉱は閉山し、産業構造の変化を余儀なくされました。その後、空港や高速道路の整備が進んだことで、輸送に便利なIC（集積回路）の工場や、広大な用地を活かした自動車工場が進出し、現在は多様な産業が展開されています。
問10	答え 3 総産出額の半分以上を畜産が占めており、その額は3,000億円を超えている	鹿児島県の農業産出額は全国でも上位に位置しますが、その最大の特徴は部門別内訳にあります。米が中心の新潟県や、野菜の割合が高い茨城県とは異なり、鹿児島県は畜産の産出額が非常に大きく、県全体の農業産出額の5割以上を占めています。具体的には豚、肉用牛（黒毛和種）、鶏（ブロイラー）のいずれも全国トップクラスの生産量を誇っており、シラス台地という土地の制約を克服した産業構造となっています。
問11	答え 1 福岡空港	福岡空港は、九州最大の都市である福岡市に位置し、九州の空の玄関口として機能しています。特に東京国際空港との路線は、ビジネスや観光の需要が非常に高く、世界的に見ても屈指の旅客数を誇る主要幹線です。都市部からのアクセスが非常に良いという特徴もあり、九州地方全体の経済・交通を支える重要な役割を担っています。
問12	答え 2 火山地帯では地下深くに高温の蒸気や熱水が存在するため、これを取り出してタービンを回す発電方式が、再生可能エネルギーの一つとして活用されている。	地熱発電は、火山付近の地下にあるマグマの熱で温められた水蒸気を利用して発電する仕組みであり、二酸化炭素の排出が少ない再生可能エネルギーとして注目されています。阿蘇山のカルデラ内には多くの人々が住み、農業も行われているため「居住が制限されている」という説明は誤りです。また、シラス台地は養分が乏しく水持ちが悪いため、かつては農業に不向きな土地とされていました。北九州工業地帯の発展は、火山地質よりも筑豊炭田の石炭と中国大陸からの鉄鉱石輸送の利便性が主な要因です。
問13	答え 2 熊本県	九州地方の熊本県は、阿蘇の外輪山麓や平野部、干拓地などを活用した農業が行われています。全国屈指の農業産出額を誇っており、トマトなどをはじめとする野菜の生産額が特に多いことが特徴です。
問14	答え 4 シラス台地	九州南部には、火山の噴出物が堆積してできた広大な台地が広がっています。この地形は水分を保持しにくく水はけが非常に良すぎるため、古くから稲作には不向きとされてきました。その一方で、現代ではその広大な面積を活かした大規模な畑作や畜産業の基盤となっています。